カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	人文学部
学科・専攻等名	人文社会学科
コース等名	地域歴史文化論

学部（学科）の教育目的（具体的に記述・箇条書き）	コースの教育目的（具体的に記述・箇条書き）
学部の教育目的：時空の広がりの中における人と社会（世界）の営為を根底から問い、それを的確に表現できる人間を養成する。 学科の教育目的：思想・歴史・社会の諸相を探究し、それを的確に表現出来る人間を養成する。	各地域の歴史の形成・展開と固有性を、史料に基づいて明らかにし、それを的確に表現できる能力を養う。

コースのカリキュラム			コースのGraduation Policy(GP)　（◎＝ＧＰ達成のために、特に重要な事項、○＝ＧＰ達成のために、重要な事項、△＝ＧＰ達成のために、望ましい事項）								
授業科目名	授業科目の主題（箇条書）（この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書に記入する。）	授業科目の到達目標（箇条書）（この授業科目の学習後に到達すべき最低限の（行動）目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入する。）	現代社会のもつ問題点を歴史的文脈の中で考える視点を持つ。	現代社会のもつ問題点を歴史的文脈の中で考える視点を持つ。	過去に起こった諸事象の固有性を歴史的に位置づけることができる。	各地域・各時代の言語で書かれた史料を読解することができる。	史料の読解・分析を通じて立論することができる。	自らの論あるいは構想を人前で提示することができる。	自らの論を学術論文の形で表現することができる。		
史学概論II	学問としての歴史学とはいかなるものか。その一端をお話しする。但し、歴史学全般を論じるというよりは、私の専門とする日本史分野を基軸としたい。とりわけ史料批判や年代比定などについては、皆さんに体感していただく機会を設けたい。	・歴史小説と歴史学との違いを理解する。 ・史料批判の方法について学び、文献そのものを吟味する目を養う。 ・歴史学には歴史叙述・歴史観の更新が求められ、単なる史料の羅列によっては成り立たないことを理解する。	○	○	○						
史学概論IV	史学概論とは、史学発展の特徴や成績についての概括な論述である。この講義の内容は、歴史と史学との関係を中心として、史料・史書・史学及びその現代価値を述べるものである。又、本講義は、講師の知識によって、中国史学に制限されるのである点を説明すべきだ。	本講義は歴史的遺産と史学的遺産についてどう受けたらよいか諸問題を説明することを目標とする。	○	○	○						
日本史概論I	日本の古代宮都（宮殿と都城）は律令を基本とした日本における古代統一国家の首都である。そしえその構造は古代国家の政治体制を直接的に反映していると考えられる。それゆえに宮都の構造上の変化は古代国家の政治体制、さらに国家自身の変化をも意味することになる。本授業では、このような観点のもと、飛鳥時代から平安時代の宮都をめぐる諸問題を具体的に取り上げて古代宮都の実態をできうる限り明らかにするとともに、さらに日本の古代についても考えを及ぼしてみたい。今学期は特に平城宮と平城京を中心に奈良時代の宮都について述べることとする。	宮都の歴史的展開過程を理解することを通じて、日本古代の歴史を再確認するとともに、研究上の常識や通説を疑い学問・研究する姿勢を養う。	○	○	○						
日本史概論III	日本近世史について概説する。他の時代と比較しての近世社会の特質を説明する。日本近世の政治・経済・社会にわたる固有の相を説明する。日本近世の時期を追っての変化を説明する。	1．近代と前近代の論理的対比、日本史上における近世という時代の特徴を理解する。 2．日本近世の政治・経済・社会の基本的知識を得る。 3．日本近世の時期を追っての流れを理解する。	○	○	○						
古文書・古記録	1．近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明する。	1．1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できる。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。				○					
古文書・古記録	1．近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明する。	1．1年間で、近世史料の簡単なすずし字であれば読解できる。 2．近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。				○					
古文書・古記録	この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。摂関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解読を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。	平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。				○					

古文書･古記録	この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。摂関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解読を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。	平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。				○					
古文書･古記録	題目：中世の古文書（前期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。	･中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。･中世の古文書について、内容解釈力を養う。･中世の文書様式の基礎を学ぶ。				○					
古文書･古記録	題目：中世の古文書（後期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。	･中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。 ･中世の古文書について、内容解釈力を養う。 ･中世の文書様式の基礎を学ぶ。				○					
日本政治･社会史論	「萩藩天保期の借銀をめぐって」という主題で講義を行う。従来村田清風の「八万貫目の大敵」という言葉のみが有名であるが、この期の借銀額の推移とその内容、馳走米の推移、米価、札銀の発行高、大坂廻米といった藩財政の重要要素とその連関をおさえながら、具体的に主題を解明する。	1．藩財政を構造的に理解する。 2．天保期という時期の時代相を知る。	○	○	○						
日本政治･社会史論	日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査･研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級に対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治･社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。	日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。	○	○	○						
日本政治･社会史論	鳥羽法皇の生涯とその呪術的世界についてお話しする。いわゆる「院政時代」の3代の院権力、白河―鳥羽―後白河のうち、白河院政期はその最初として注目度は高い。また後白河院政期は、平氏政権･鎌倉幕府が成立する激動の時代として周知である。ところが、その間にはさまれた鳥羽院政期については、前後の時期に比してあまり目立たず、歴史的位置づけも必ずしも明確ではない。そこで本講義では、鳥羽法皇の前半生（＝白河院政期後半）とその後半生（鳥羽院政期）に注目し、とりわけその呪術的世界や宗教勢力の動向を捉えながら、中世初頭における王権の動向の一端を明らかにしたい。	白河院政後期および鳥羽院政期の歴史的位置について、理解を深める。	○	○	○						
日本政治･社会史論	朝鮮古代王都の研究。　朝鮮三国、具体的には高句麗･百済･新羅のそれぞれの王都について、その立地･構造、定都の経緯、政治的背景などについて詳述し、三国の国家史の変遷のなかに位置づける。また東アジア都城制における位置づけにもふれる。	(1) 朝鮮古代史の基礎知識を身につけ、現在の課題を知る。 (2) 東アジアにおける普遍性･特殊性などについての認識を高める。	○	○	○						
日本政治･社会史論	武士中心史観や新仏教中心史観への批判により中世仏教史は激変した。中世仏教の中心が新仏教から旧仏教に代わっただけではなく、「鎌倉新仏教」概念まで批判されている。本講では、旧仏教の最盛期を院政時代と措定し、古代仏教の中世仏教への変革過程を論じながら、鎌倉仏教研究の現状や問題点を紹介する。	古代仏教の中世仏教への変革過程を考察しながら、古代から中世への転換の意味を考え、理解することを目指す。	○	○	○						
日本政治･社会史論	「近世社会と絵図」という主題で、江戸時代につくられた国絵図･郡絵図･村絵図について概観し、それが社会のなかでどのような機能を果たしたか、具体的に考える。	1．絵図を見る楽しさの発見。 2．歴史史料として絵図を見るポイントを知る。 3．絵図から近世社会のあり方を考える。	○	○	○						
日本史史料講読	萩藩法制史料を精読する。基本的用語の読み･意味を正確に身につけさせ、時代背景･機構･変化を読み取っていく。	1．萩藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構･時代背景を理解する。 2．近世の基本的用語の読み･意味を知り、近世史料を用いて研究･考察する力を培う。				○					

日本史史料講読	萩藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。	1．萩藩政治史史料を講読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2．近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。				○						
日本史史料講読	古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。	典型的な漢文史料を読解する力を養成する。				○						
日本史史料講読	古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。	典型的な漢文史料を読解する力を養成する。				○						
日本史史料講読	題目：貴族日記『勘仲記』を読む（6） 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期の中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。これまでの輪読対象としては、兼仲がまだ摂関家の家司であった頃の検討を続けており、今期は弘安6(1283)1月条の検討を予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。	・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。				○						
日本史史料講読	題目：貴族日記『勘仲記』を読む（7） 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期の中流貴族、勘解由小路兼仲(1244～1308)の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。これまでの輪読対象としては、兼仲がまだ摂関家の家司であった頃の検討を続けており、今年度前期には弘安6(1283)1月条を検討したため、今期にはその続きを検討する。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。	・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。				○						
日本史演習	日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深化させる授業である。	1．各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2．史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3．自分の見解を論理的に述べる。					○	○				
日本史演習	日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深めていく授業である。	1．各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2．史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3．自分の見解を論理的に述べる。					○	○				

日本史演習	受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査･研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。	受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査･研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。					○	○			
日本史演習	受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査･研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。	よりよい卒業論文の作成を目指す。					○	○			
日本史演習	題目：日本中世史の諸問題 概要：3・4年を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていってもらいたい。	卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。					○	○			
日本史演習	題目：日本中世史の諸問題 概要：3・4年を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていってもらいたい。	卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。 4年：よりよい卒業論文にしあげて提出する。					○	○			
東洋史概説I	本講義は、以前行った中国古代社会史の続きと言える中国古代精神史である。古代精神史は時代精神史の一部である。「時代精神」とは長い歴史上、各時代の人の主な精神状態と思想観念を指す。「中国人とはなんですか」という質問に対しては簡単には答えられない。しかし、人間と人間あるいは民族と民族の相違点は一見生活習慣の違いの様に見えるが、実はその深層における観念、思想など所謂「精神」の違いの方が論理的により本源的である。換言すれば、「中国人とはなんですか」という質問に対しては、中国人の「精神」の面から、紹介すべきだと言えるであろう。本講義は古代中国人の精神についての紹介である。	本講義は、伝統時代精神と歴史との関係という論題から論じ、上古時代における中国の崇拝や思潮や人間的な気迫といくつの面を通じ、中国における古代精神の諸特徴を説明できる目標とする。	○	○	○						
東洋史概説II	中国明清時代の社会･経済の歴史について概説する。	明清時代の歴史について、社会･経済的要因から理解する。	○	○	○						
中国社会･経済史論	百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C末～21Cの初、中国古代の秦漢時代（BC.220～AD.220）の出土文字資料――簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の50万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は辺境簡と内地簡の二部構造に分けて、紹介したいと計画する。	出土文字の研究によって、21世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。	○	○	○						
中国社会･経済史論	中国明清時代の中央政府と地方政府の関係について文書送達および財政収入の処理を中心に検討する。	所謂「中央集権的専制国家」を相対化した上で、明清国家がいかにその大きな領土を統治していたか、その制度的、技術的側面を再検討し、再認識する。	○	○	○						
中国社会･経済史論	【清末～辛亥革命期におけるジャーナリズムの展開と社会変革運動】この講義は、19世紀60年代「天津･北京条約」以降～辛亥革命（1911）に至る清末社会変革運動の諸相を、中国における近代的ジャーナリズムの発生と展開過程として捉え、その観点から(1)19世紀末の啓蒙思想家、早期ジャーナリスト、および(2)辛丑条約(1901)～辛亥革命間の政治運動諸潮流の各種「報刊（新聞･雑誌）」活動の実態に即して考察する。これらの大半は「政論」型の性格をもつが、(1)が清朝に対峙して、権力を相対化しつつ、世論形成、参加を目指すのに対し、(2)は各派の政治主張を公開の論争を通じて、国民統合の方策、近代国家建設構想を明確にし、運動主体を強化しつつ、大衆の政治動員を企図した点、また清朝の対抗政策についても明らかにしたいと考える。	(1)19世紀後半～20世紀初頭における中国の歴史的状況を理解する。 (2)当時の中国をとりまく国際環境（列強帝国主義との関係）について考える。 (3)世界史における「近代」とは何か、また一般に「近代化」の指標は何と考えるか。 (4)当時の「君主立憲」（体制内改革）と「共和立憲」（民族革命）との違いを知る。 (5)各報刊の出版基盤、編集方針･編集陣、発行形態、読者層と、その推移を知る。	○	○	○						

中国社会･経済史論	中国の史料が作られる過程を様々な角度から検討し、中国人の歴史に対する考え方や文字に記録する姿勢のあり方を明らかにしていく。また、そうした観点を踏まえて中国史研究においてその史料を用いる際の留意点について述べる。	奥義を聞くことで中国の史料が持っている独特の性質を認識し、それを通して中国の歴史と伝統の複雑さを理解する。また、中国の史料を扱う際の注意点を知り、専門研究の基礎とする。	○	○	○						
アジア文化交流史	近代日本に留学した中国留学生の手記や日記を主に検討し、中国の「近代化」に日本留学が果たした役割を探る。	近代の日中間の関係を中国人の日本留学という点に於いて捉え、その正負両面の相互関係について理解する。	○	○	○						
アジア文化交流史	中華文明世界の南方に位置する嶺南地域＝現在の広東･広西からヴェトナム中部に至る地域は、かつて「越」と呼ばれる人々が独自の世界を形成していた。越の世界と中華文明世界との交流は新石器時代に遡ると考えられるが、BC2c以降、次第に越世界は中華文明世界の中へと巻き込まれ、やがてAD10cにはヴェトナム世界が現ヴェトナム北部に成立する。異なる文化世界間にどのような交渉･関係があり、それが各時代の地域文化世界の形成とどのように関わるのかについて、史料に即し具体的に考察する。	現在、「歴史」は、近代ヨーロッパにおいて成立した近代国民国家を地理的枠組みとして描かれるのが普通である。しかし、過去の歴史世界をありのままに理解するならば、現在の国境線は意味をもたず、しかも、過去の歴史世界は、ある意味において、現在に至るまで意味を持ち続けている。近代国家の枠組みにとらわれることなく、中華文明世界における地域文化世界が、中華文明との関わりにおいて、どのように形成され、どのような歴史をたどったのかを、具体的に理解する。	○	○	○						
アジア文化交流史	中華文明世界の南方に位置する嶺南地域＝現在の広東･広西からヴェトナム中部に至る地域は、かつて「越」と呼ばれる人々が独自の世界を形成していた。越の世界と中華文明世界との交流は新石器時代に遡ると考えられるが、BC2c以降、次第に越世界は中華文明世界の中へと巻き込まれ、やがてAD10cにはヴェトナム世界が現ヴェトナム北部に成立する。異なる文化世界間にどのような交渉･関係があり、それが各時代の地域文化世界の形成とどのように関わるのかについて、史料に即し具体的に考察する。	現在、「歴史」は、近代ヨーロッパにおいて成立した近代国民国家を地理的枠組みとして描かれるのが普通である。しかし、過去の歴史世界をありのままに理解するならば、現在の国境線は意味をもたず、しかも、過去の歴史世界は、ある意味において、現在に至るまで意味を持ち続けている。近代国家の枠組みにとらわれることなく、中華文明世界における地域文化世界が、中華文明との関わりにおいて、どのように形成され、どのような歴史をたどったのかを、具体的に理解する。	○	○	○						
東洋史史料講読	王慶雲著『石渠余記』講読。王慶雲は清代道光9年の進士。順天府尹･戸部侍郎･両広総督･工部尚書などを歴任した。この筆記は清代の行政･財政･経済に特に詳しい。本書の標点本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていく。	(1)漢文史料の基礎的読解力を涵養する。 (2)清代基本史料の収集･操作力を涵養する。 (3)清代の基本的政治制度について理解する。				○					
東洋史史料講読	王慶雲著『石渠余記』講読。王慶雲は清代道光9年の進士。順天府尹･戸部侍郎･両広総督･工部尚書などを歴任した。この筆記は清代の行政･財政･経済に特に詳しい。本書の標点本を受講学生が中心となって読み、担当教官がそれに解説を加えていく。	(1)漢文史料の基礎的読解力を涵養する。 (2)清代基本史料の収集･操作力を涵養する。 (3)清代の基本的政治制度について理解する。				○					
東洋史史料講読	講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。	学生の古代漢語を読解する能力や史料を捜集する能力を一層高めることを目標とする。				○					
東洋史史料講読	講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。	学生の古代漢語を読解する能力や史料を捜集する能力を一層高めることを目標とする。				○					
中国史演習	近年来大量に出土した秦漢時代の木（竹）簡より、代表的な書類（法律文書･官署簿籍･占い書･詩賦など）を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。	学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。					○	○			
中国史演習	近年来大量に出土した秦漢時代の木（竹）簡より、代表的な書類（法律文書･官署簿籍･占い書･詩賦など）を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。	清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。本年度は、中国南部の農業社会史料を中心に読む。					○	○			
中国史演習	清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。本年度は、中国南部の農業社会史料を中心に読む。	清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国南部の農業社会を分析し、理解する。					○	○			
中国史演習	清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。本年度は、中国南部の農業社会史料を中心に読む。	清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国南部の農業社会を分析し、理解する。					○	○			

西洋史概説III	スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダ、フランスなお、いわゆるヨーロッパ列強は、アメリカ大陸において大規模な奴隷制度を展開しつつ植民事業をおこなった。今年度の西洋史概説では、この近代の世界の歴史においてきわめて重要な意味をもつ奴隷制度を、現在の国民国家の境界に限定されることなく、多角的な視野から考察する。	世界各地の奴隷制を比較考察することを通じ、アメリカ近代の特異性を把握する	○	○	○						
西洋史概説IV	スペイン、ポルトガル、イギリス、オランダ、フランスなお、いわゆるヨーロッパ列強は、アメリカ大陸において大規模な奴隷制度を展開しつつ植民事業をおこなった。今年度の西洋史概説では、この近代の世界の歴史においてきわめて重要な意味をもつ奴隷制度を、現在の国民国家の境界に限定されることなく、多角的な視野から考察する。	世界各地の奴隷制を比較考察することを通じ、アメリカ近代の特異性を把握する	○	○	○						
ヨーロッパ史	〔19世紀末までのロシア史の展開〕9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識していた西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行なうことにしたい。	専制政治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まりまもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成過程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。	○	○	○						
ヨーロッパ史	〔ロシア革命の考察〕19世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902年にレーニンが提起した党組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられたボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革命体制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスターリンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。――こうした問題を考えてみたい。	概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。	○	○	○						
ヨーロッパ史	近年の西洋史研究では、「グローバル化」時代を反映して、人、モノ、情報などの流れに着目した研究が多い。本講義では、近世のフランスに滞在した外国人の動きを多面的に考察し、当時のフランスが外部世界とどのようなつながりをもっていたかを検討する。	従来の研究では、フランスの大陸的・農民的性格が指摘され、「絶対王政」の側面が強調されたが、近年では海洋的・商人的な性格も注目されている。外国人研究を通して、これまでのフランス像の見直しをはかりたい。	○	○	○						
アメリカ史	アメリカの人種関係を根底から変化させた１９６０年代の公民権運動について、口述筆記史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較しながら、「６０年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。	(1)史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2)現代史特有の問題点に関し理解を含める	○	○	○						
アメリカ史	アメリカの人種関係を根底から変化させた１９６０年代の公民権運動について、口述筆記史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較しながら、「６０年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。	(1)史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2)現代史特有の問題点に関し理解を含める	○	○	○						
西洋史学講読（英語）	公民権運動の主要論文、ならびにその論文に使われた史資料を併せて読む。論文の読み方と史料の読み方の違いを把握し、英語読解能力を高める。	(1)英語を英語で理解し、速読ができるようになる(2)史料と論文の読み方の違いを体得する				○					
西洋史学講読（英語）	公民権運動の主要論文、ならびにその論文に使われた史資料を併せて読む。論文の読み方と史料の読み方の違いを把握し、英語読解能力を高める。	(1)英語を英語で理解し、速読ができるようになる(2)史料と論文の読み方の違いを体得する				○					
西洋史学講読（ドイツ語）	学生諸君はおそらくドイツ語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なドイツの大学基礎課程の歴史教科書を読んでいく。テキストは Joahim Immisch(Hrsg.), Politik, Gesellschaft, Wirtschaft von 1919 bis 1945(Zeiten und Menschen. Ausgabe K. Band 4/1), Paderborn, Verlag FerdinandSchoeningh, 1990 である。	ドイツ語文献読解力の向上を第一の目標としている。				○					
西洋史学講読(ドイツ語)	前期と同じ。	前期と同じ。				○					

西洋史学講読（フランス語）	学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは Jean-Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。	辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。―これが第1の目標である。				○					
西洋史学講読(フランス語)	前期と同じ。	前期と同じ。				○					
西洋史学講読（ロシア語）	受講生はロシア語の初級文法を習得しておいていただきたい。テキストについては、ロシアで現在使用されている歴史の教科書などを考えているが、4月の最初の授業のさいに受講生と話し合って決定する。	ロシア語の初・中級程度の文章を、辞書を用いて、正確に早く読み取ることができるようになる。―これが第1の目標である。				○					
西洋史学講読（ロシア語）	前期の概要を参照のこと。	前期と同じ。				○					
西洋史演習	3・4年生を対象としている。毎回各自が関心をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の摘出、素材の用い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。	学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、					○	○			
西洋史演習	前期と同じ。	前期と同じ。					○	○			
西洋史演習	3，4年生を対象（それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する）とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学術論文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告を行う。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する	(1)歴史学諸理論の把握 (2)理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3)時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ					○	○			
西洋史演習	3．4年生を対象（それ以外の学年でも、単位は与えないが、「傍聴」は歓迎する）とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学理論を把握することを目的に、学術論文を読む。4年生は、卒業論文の研究の報告を行う。なお論文は、参加者の関心にしたがって決定する。	(1)歴史学諸理論の把握 (2)理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3)時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ (4)4年生は卒業論文を完成する					○	○			
卒業論文									○		
GP項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）											
総合的GP到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）											